

戦時徴用船遭難の記録画展 来場者の声

アンケートから

ご来場の多くの方がたから、約六万人の戦死者の内二十代の死亡率三十パーセント、命を顧みずの責任感、二度としてはいけない戦争などについて三八〇通の貴重なアンケートを頂きました。すべてを掲載できませんがその一部についてご紹介いたします。(敬称省略)



友近親子さん 華さん 晋くん



会場入口に掲示した看板

昭和十六年十二月に始まり昭和二十年八月に終戦となった太平洋戦争は、西太平洋全域に戦線が拡大され、兵員などの輸送や占領地域からの資源輸送のためには、船舶による海上輸送なしには戦えなかった世界戦史に例を見ない「海洋作戦」が中心の戦争でありました。そのために、商船はもとより漁船や機帆船などあらゆる船舶が軍に徴用され、米軍(連合軍)による徹底した海上輸送路の壊滅作戦の前に、七〇〇〇隻を超える船舶の喪失と陸海軍人の損耗率を

はるかに上回る六万余人の船員の犠牲者を出しました。

展示した記録画は、海上輸送に従事した船員や船舶の悲惨な実相を伝える貴重な作品で、大阪商船(現商船三井)の嘱託画家故大久保一郎氏が戦時中に描いたものです。

全国各地でこの記録画展を開催するのは、戦没船員のご遺族や関係船員は勿論、広く一般の方がたにもこの絵画を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを知って頂くためです。また、未だに戦没船員の碑や追悼式な

どの慰霊・顕彰が行われていることを知らない遺族の方もいらっしゃいます。その方がたにできるだけ知って頂くためでもあります。遺族の世代は配偶者が高齢化し中心は子供へと変わってきています。次の世代に戦争の悲惨さを継承するには、小学

生・中学生・高校生にその実状を理解してもらいたいと考えます。今回は夏休み中の開催でもあり、中学・高校生も多数来場して頂きました。テレビ・新聞の報道各社のご協力で心より感謝申し上げます。

島村 蒼 十代 中三 松山市 爆発の表現の仕方がとても素敵だった。皆が慌てている様子や悲しんでいる様子がとても分かりやすく表現されていた。どうやったらあんなに上手く表現できるんだと思った。

栗田 浩次 十代 中三 松山市 今まであまり戦争の絵というものを見たことがありませんでした。しかし、今回この記録画展に来てみると壮大なタッチで描かれた船を見る事ができました。いつも描く水彩画の感じとはまた違う絵というものも味わえました。

大内 智弘 十代 中三 松山市 迫力のある絵だったので、その時の戦場の状況や船員の姿などがしっかりと頭に残ってくるようでした。



左から島村さん 大内さん 栗田さん

絵でここまで表現できるものなんだなあと感じました。ここに来て良かったです。



取材を受ける加賀城さん 左

加賀城 久子 七十代 多度津町
戦時徴用船の記録画展を開催して下さって有難うございました。私達はいつまでも、遭難して二度三度も生残って帰って来ても、次には帰らなくなつた船員の皆様を忘れる事ができません。



重松弘之さん

重松 弘之 七十代 松山市
読売新聞をみて、長兄がフィリピ

ン沖で戦死したので来場した。



大垣摩利子さん

大垣 摩利子 二十代 今治市
大学の授業で高校まででは習わなかった戦争の一面を学ぶ機会を幸運にも得まして夏休みを利用して少しずつ戦争について調べていました。そしてそんな私の姿を知る家族から今回の画展のことを聞き、訪ねてきました。自分なりに調べて感じていた事ですが、戦争中の資料はとても貴重であり、それだけでなく、それらの現在残されている限られた資料から戦争中の出来事を正確に後世に残すことはとても大変な作業だと思います。それにも関わらず今回の画展では普段の生活ではなかなかお目にかかれない繊細かつダイナミックな作品を多数見ることができ、本当に有意義な時間を過ごすことができました。特に印象に残ったのは同僚の安否を蒸気の満ちる部屋で確認していたものです。戦争中ということになると、「当時の人々はみんな狂っていた」と言う人さえます。しかし同僚のために危険な部屋で声を

あげて呼ぶその人の姿を見ると、当時の人びともやはり、現代に生きる私たちと何も変らない人たちだったんだなあと感じます。戦時中は特に海で亡くなる人が多かったと思いますが、彼らの魂が少しでも安らげるよう、心よりお祈りします。



「ドキュメント・太平洋戦争」ビデオ鑑賞の来場者

松友 順三 七十代 松山市
戦中戦後の苦境を体験した私は全てが身につまされる出来事。特に徴用船遭難関係はうっすらとは聞いていたが、本日の記録画展やビデオのNHK特集を見聞きし、改めて当時のでたらめな勝ち目のない戦争のため、多くの人命物資を喪失することになった無謀な戦であったことを再認識した。

今後は係る戦争のなきよう国民一人一人が真剣に考えるべきである。特に若い人達にこのような企画を是非学んでほしい。

私自身、松山空襲の体験者でもあり、目下は市の「平和の語り部」として市内の小中学校へ語りに行っている。今後もこのような企画展をやってほしい。

太田 美智子 七十代 松山市
美術の講習で美術館に来て図らずもこの展示を拝見致しました。最初の二、三枚を見ただけで胸に衝撃を受け、不安と目まい、入ってきたのを後悔しました。でも、見続けるうち、やはりきちんと見なければいけないものと思えました。

終戦の年が小学校入学の時にあります。父は戦場から七年の時を経てたまたま帰っておいりましたが、優しかったおじ達、近所のおじさん達の悲しい知らせを毎日の様に聞いていたのを覚えています。人の世にこの様な事があるのかと究極の恐怖の中に、人の情も責任も果たそうとする人達の心も知りました。一人でも多くの人にこの展示を知って、見て頂きたいと思えました。作者の方、この展覧会に尽力された方に感謝いたします。

片山 武義 七十代 松山市
昭和三十年に山下汽船に入社して

約十五年間機関士として外航に乗りその間先輩より戦時中や朝鮮動乱の話をよく聞きました。今回の記録画展で戦事中の商船がいかに国の為に活躍し貢献したか、犠牲が多く出た事がよく解りました。



松本頼恵さん 左

松本 頼恵 七十代
 迫力のある絵だった。沈みゆく船の中で最後まで自分達の持ち場を離れず、やるべき事を果すという責任感にビクビクしました。でも女の私達には母国で待っている妻とか子供の事を考えると何とも言えない悲しい気持ちになりました。



西谷静子さん

西谷 静子 七十代 松山市
 私は昭和四年生まれ、学徒として

大阪で風船爆弾を作り、又飛行機の部品も作ってきました。しかし、海軍については何も知りませんでした。戦争はしてはならない、つくづく思います。



お父さんの遺影持参の志波英明さん

志波 英明 七十代 松山市
 私が国民学校三年生の時、当時神戸に住んでいたが、九州佐賀の祖父の家（西ノ宮神社）に疎開していた私のところに父は逢いに来たあと、佐世保から南方へ出港し、東シナ海にて米潜水艦の魚雷にて轟沈沈没戦死した。商船学校卒業以来、大阪商船船員（機関士）から海軍に徴用されたもの。本日、松山美術館で大久保一郎画伯遺作展が二十日から二十四日までと読売新聞で知り、父の遺影を持参し来館した。私自身、兄弟

の中で商船学校を出ていなかったの
 で父の後を継ぐため、当時の海上自衛隊に入隊（昭和二十九年十月十一日）舞鶴、横須賀、呉、佐世保などで訓練を繰返し、二十年前に定年（二等海尉）退職し松山に永住することとしたものである。本日の画展で船の最期の姿を観て涙したものである。少しでも父親に孝行できたのではないかと自負している。海上自衛隊在職中に、沈没地点確認や横須賀観音崎公園にある戦没船員の碑に父の御霊（英霊）の祈りと靖国神社への参拝、また本画展鑑賞で少しでも父へ恩返しができることが嬉しかった。



記録画に見入る来場者

友近 親子 七十代 松山市
 里見八犬伝を見にきた子供たちに

船の絵を見たいといわれ連れてきた。小六 晋くん、小一 華さん

高橋 正一 五十代

松山海上保安部長

大戦の記録に関しては、いわゆる軍艦については書籍や映像資料により目にするものの、輸送船（徴用船）についてはなかなか目にする事ができない故、これら絵画は輸送船の行動（主に末路、最期のみではあるが）について知識を得ることができ、貴重な資料であると思慮します。今後においても継続的に世の中に紹介されることを望みます。

猪之奥 萌子 十代 東温市

私は幼いため戦争がどんなものかは学校で習うか祖母に話しを聞くくらいでしか知る方法がありません。しかし、その戦争がひどいなんて言葉では言い表せないものであったことは分かっています。

今回、戦中の絵を見て二度とこんなことになってはいけなさと改めて実感しました。私にできることは何も無いかもしれないけど、この気持ちを大切にしていきたいと思えます。

水野 幸江 四十代 東温市

原爆や空襲の様子はTVや書物で多少見聞きしたことはあるのですが、南方の海上でどのような戦いがあつたか知らなかったなので、今回の

絵を観て軍艦ばかりの戦いでなく輸送用の船が多く沈んだと知ってびっくりしました。



アンケートを記載する藤原美代さん 右から二番目

藤原 美代 六十代 宇和島市
新聞によりこの記録画展のことを知り早速出かけてきました。父がフィリピンのセブ島で民間の徴用船で戦死し、自宅はB29機により全焼、思い出したくない戦争でした。苦勞した母の介護も終わり、やっと亡父の慰霊に心を配る余裕が出てきました。このような企画、もつとテレビ、ラジオなどでも周知して頂ければと思います。ありがとうございます。

三好 國純 五十代 松山市
テレビを見て家族四人、奥さんと

子供二人で来場。小三、高太郎君。小一、健二朗君。

三好 令子 五十代
子供に見せることができて良かったと思います。こんなに多くの船舶が沈んでいったのかと思うと複雑な気持ちです。



三好さんご家族四人で来場 後列奥様とご主人

三好 高太郎 九歳
とてもいいことがまなべた。せんそうはとってもこわいんだなと思いました。みんなこうげきしたり、やりかえしたりして、全ぶのふねがしずんだと思いました。

土佐 二十代 松山市
大戦中、こういったことがあった

ということを知らなかった。今日の展覧会で初めて知ることができた。地元の港から出た船もあり、船員や船の生なましい様子が胸にせまるものがあつた。

映像資料もまた、本展のことを知る上で必要なものだったと思う。普通の兵士たちよりも死亡率が高かつたことに本当に驚いた。どれだけ日本が確かな考えなしに戦争を始め、続けていたことがよく分かつた。

正直、大学の授業で美術館に来て看板を見なければ、本展を知ることにはなかつただろう。もつと多くの人に知ってもらいたいと思った。



事務局に質問する 藤村洋子さん

清水 里湖 十代 大州市
戦争を知らない。知っていることは全部聞いた話。百聞は一見にしか

ず、といった言葉の通り、私には何一つ語ることはできない。でも、来て良かった。戦争については偏った知識しかなかったので、この展覧会で広まったような気がする。私が今生きている時代があるのは歴史の、犠牲があるからだ、ということが自論。この絵に描かれた船・乗組員に安らかな海があるといいと思った。

河本 香織 四十代 伊予市

戦争とは・・・全く知らない六才の息子が「見たい」と言うので、入ってみました。息子は興味はあるものの、まだ理解できていないようですが、いつか、この画展の事を想い出す事もあるでしょう。敵、味方の区別なく助けている画をみると、あたたかい気持ちに触れたように思います。亡くなられた多くの方々のごめいふくをお祈りします。豊かな現代を残してくれた事を感謝します。

氏原 乃亜 七歳 松山市

この絵を見て、自衛隊は忙しい仕事だったんだなあと思いました。お父さんが見ると、お父さんの昔の仕事は自衛隊なので(潜水艦)なるほどと思うかも知れません。

石井 富美子 七十代 松山市

戦中を共にした者として涙が出ます。戦没船員のご冥福を心よりお祈りします。

ご遺族のお便り



山本明義さん

徴用船写真ありがとう

山本 明義 宇和島市

拝復 この度「戦時徴用船遭難の記録画展」拝観させて頂き有り難うございます。

小生には、十五年戦争へのこだわり、父戦死への恨の現実直視の「志」は、終生の課題です。

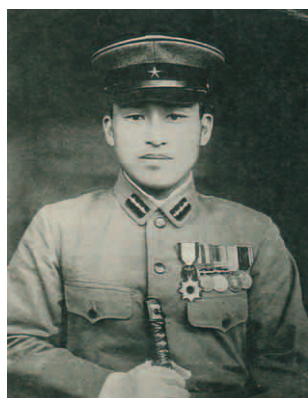
松山での最終日、眼にした惨劇の記録画、戦後、我家（祖母、母、私共兄弟五人）の重い歳月を回顧しつつ、胸中深く刻みました。特に父乗船の「瑞穂丸」との出会いには肅然たるものでした。

亡父は、北滿、中支に三度出兵後、善通寺陸軍病院在勤を経て、大戦終期、昭和十九年七月末、善通寺発同年九月二十一日比島ルソン沖にて戦死（乗船瑞穂丸）とされ、その二ヶ月間の空白を埋めたいと存じておりました。今度、貴会より「瑞穂丸」関係の

詳細なる資料、写真等御惠贈下さり、戦没に至る実態（涙あたらなる実態ですが）把握できました。

父逝きて六十四年の夏、九月二十一日は年毎に巡り来ますが、昭和十九年九月二十一日は我家、私共にとり絶対に忘れ得ぬ日であり、新たな未来への出発の「志」を再確認すべき日としています。

小生、昭和三十八年八月十五日「第一回全国戦没者追悼式」に愛媛県代表二十四名の一員として（郡市一名宛）参加させて頂きました。公式発



山本大吉氏 昭和19年最後の姿

表では戦死者二百三十万人、その他八十万人計三百十万人とされています。参加者一同その体験を胸に「平和への願い」を新たに致しました。新聞取材で心境を問われ、「年を経る毎に父の存在を意識し厳しい歳月の戦後社会を共有したかった。無念です」と述べ、私共の共通のおもいを記事にして戴きました。

前後して申し訳なく存じますが、「戦時徴用船」の船員として兵と運命を共にされた方がた、その遺族の皆様の中、如何ばかりか心より御

慰霊、御同情申し上げます。末筆になりましたが、皆様のご多幸お祈りいたします。 敬具

太平洋戦争と戦没船員

わが国の海運・水産業は、太平洋戦争において軍人の損耗率（戦争に参加した員数と戦死者の割合）を上回る六万余人の戦没船員と、膨大な船舶の喪失による日本商船隊の壊滅という大きな犠牲を払った。戦没船員の悲惨な実態を伝えるも、軍人を上回る犠牲といたいけ

な年少船員の多いことが挙げられている。軍人の損耗率は、陸軍二十%、海軍十六%となっているが、船員は四十三%（漁船、機帆船の正確な数字が把握困難なので推計）にも及んでいる。

また、戦没船員の年齢別分布は左表の通りになっている。この背景には、戦時特例によって海員養成所、商船学校、高等商船学校などの卒業年限が大幅に短縮されて乗船したこと、船舶の急激な喪失による船員の犠牲をカバーするため、大量の船員養成が行われたことなどによるものである。

戦没船員の年齢別分布

年齢	人数（推計を含む）	比率
14	987	1.63
15	2,866	4.73
16	3,182	5.25
17	3,967	6.54
18	4,204	6.94
19	3,842	6.34
20歳未満小計	19,048	31.43
20以上30未満	16,601	27.39
30以上40未満	13,188	21.76
40以上50未満	8,534	14.08
50以上	3,238	5.34
合計	60,609	100%

投稿

父の思い出

元全国戦没・殉職船員遺族会

副会長 木村静香



木村静香さん

春の彼岸に長男と連れ立って、多摩の墓参に行つて参りました。

昨年の終戦記念日に、亡き主人木村鉄郎のテレビ放映の事を書かして頂きましたが、父もやはり船員で、永い海上生活を致しまして戦没して居ります事を考え、まだ一度も父の事は記事にして居りません。

或る方に相談致しました処、故人の事を書く事は、供養にもなり又、慰霊にもなると申されました。父の生前の事が色いろと懐かしく思い出されて参ります。書いてみようと思ひ致しました。

亡父、木村武は明治十六年六月一日に群馬県で生を受けました。祖父は裁判官だったそうです。祖母は神社の家に生まれ村の人びとに読み書きを教えたそうです。私が幼い頃、祖母は子守唄の代わりに、百人一首

を口ずさみ、漢文（女大学）を読んでくれてその声を聞きながら何時とはなしに眠りについたらものでした。祖母は漢文を勉強させられた様です。厳しい祖母でした。



木村武氏

話しは元に戻りますが、父は前橋中学校に入学（今の前橋高校）。その頃から外国に興味を持って居りました。英語を習いに英国人の教師の処に行つて、授業が済むと当時は珍しい紅茶とケーキが出るのが嬉しく又、大変おいしかったそうです。念願の越中島の東京高等商船に入学し、自分の想いがしだいにかなえられて来ました。父は東機三十六期でございます。その頃の学校の教官は豪傑ぞろいで面白いエピソードも沢山あった様でございます。いよいよ日本郵船に入社、待望の船員生活が始まりました。世界各国の港に入港し苦

しい事もあったと思いますが、楽しい事、珍しい事が沢山あった事でしょう。家には世界中の写真と港から出した手紙や絵葉書が沢山あります。

私が生まれましたのは大正八年でその頃父は既に機関長で欧州航路に乗船して居りました。幼い時兄が亡くなり、その後私が生まれたのです。その頃、日本海運は黎明期でした。第一次欧州大戦の最中で日英同盟を結んでいる為ドイツのUボートに追跡され命からがら逃げ九死に一生を得たそうです。後で此の話は語り草となりました。

私が三才の時大病を患い死に掛かった事があり、それ故が大層大事に育てられました。父は在宅時、私を離さず幼い頃は何時もひざの中で抱かれて居りました。来客の時は一緒に相手しました。物事が少し分かって来て来た頃、父の帰国が近づくともう嬉しくて指折り数えて居りました。いよいよ横浜港にお船が着くと家族でお迎えに行きました。そして、大好きな父に会える嬉しさで胸がわくわくした、あの気持ちは今でも忘れる事ができません。お土産も沢山ありました。当時は舶来品が良く人びとの憧れでした。メルトンの服地、綿レース一卷、ガスオーブン、紅茶、ココア、ジャムの箱入り、水牛の角、遊び道具の麻雀、家具等、母はこれ等の品物をご近所の方、親

類や知人等におすそ分けしておりました。皆大変喜ばれました。又、私にはベルギー、イギリスからお人形を買って来ました。母は着せ替えの服を作成し、私は着せたり脱がしたりの毎日でした。船乗りの家庭は、主人不在で不自然で淋しい生活ですが、経済的には恵まれていたと思います。しかし、母は留守中乗組員の労苦を忍び、決して贅沢はせず堅実を旨とした暮らし振りであったと思います。自分の母の事を褒めるわけではありませんが、長い留守中、色いろ困難な事が起こっても総て処理し、父の帰宅時には爽やかな明るい家庭がありました。私は此の様な状況の中で、幼時から娘時代迄を過しました。

これから先は、父から聞いた乗船中の出来事でございます。当時我国にベルギーの皇太子が来日する事となり、乗船されるのは父の船となりました。高貴の方の乗船なので部屋は全部新装され御乗船の用意は整いました。ところが満州事変が勃発、来日は中止になったそうです。また、満州事変調査のため、国際連盟のリットン卿一行が欧州より乗船され、食事の時間には同じテーブルで事変の事を話題にし、父はその返答に大変困ったと申して居りました。その頃から日本は道を踏み違えたのでしよう。しかし、私共国民はその事実を少しも知りませんでした。又、次



絵画・香取丸

の様な事もありません。小学校低学年の時、家から電話で帰宅する様にとの事で急いで帰りますと、玄関には大勢の新聞記者が居て記者曰く、「父の乗船して居りました船、香取丸が英国の近くで火災を起し沈没遭難したと云う電報が入りました。母が、ご家族はどの様なお気持ちですか」と立て続けに聞かれました。母はその時、風邪で寝て居りましたが、気丈にも熱があるのをおして彼らと面会し「会社から何も知らせが無いのに何もお話しする事はありません」と涙一つ見せず答えました。その毅然たる態度は実に立派でした。案の定、後で会社から人が見えられ誤報ですから安心して下さる様にと

手厚い報告がありました。その時、家族は初めて安堵致しました。

永い海上生活を終えて父は無事退職致しました。今までの生活と違い、両親は本当に楽しそうに旅行したりして静かな安らかな日びが続いていました。その頃、私は主人と婚約しました。昭和十六年五月四日結婚致しました。やはり主人も東京高等商船機関科の出身で、東機九十六期でございます。自分の後輩が婿になったので嬉しかったに相違ありません。でも此の様な生活は永く続きませんでした。時局の緊迫から父は再度応募乗船致しました。そして昭和十七年八月二日に戦没致しました。六十才で

父は温厚な性格で、人と争った事も無く乗船中は皆、乗組員とは家族の様に過ごしていた様です。日本に帰港しますと、大勢の方がたを家に招いて労をねぎらって居りました。父がいよいよ最後に出港する時、私は結婚一年目で長女を身ごもって居りました。女の子が生まれたら可愛いい赤い着物を買ってやってくれと云い残し出港して行きました。やはり女の子が生まれました。どうしてわかったのか不思議でなりません。父は初孫にはとうとう会えませんでした。本当に残念でございませぬ。父の戦没に関しては国が立派な慰霊祭をしてくれました。それから二年後の昭和十九年十一月十日主人鉄郎は、

比島オルモック海で壮烈な戦死を遂げました。特殊船高津丸の乗組員百四名は、海の藻屑と消えました。親子二代御国のために亡くなりました。殊に父は日本海運のため永い年月その一端を支えその一員であった事は誇りに思っています。

思い出すままに綴って参りました。

投稿

「記録画展」を拝見して

加賀城 久子 香川県



富士丸を救助する鴨緑丸 記録画

た夫、同じ様な思いをされた皆様の心中は計り知れません。

画展の中に、日本郵船の「富士丸」を救助する鴨緑丸の絵があり、感慨深く拝見いたしました。昭和十八年十月二十七日、朝二時半ごろ、台湾のキールンから船団で帰る途中、東シナ海で最初に郵船の加茂丸が魚雷を受け、富士丸が加茂丸の救助に当たっていたところ、この富士丸も魚雷を受けて沈没し、今度は鴨緑丸が救助するという記録画でしょう。

当時、加茂丸の乗組員であった私の夫は、沈没間に筏で加茂丸を離脱、鴨緑丸に救助されたとの話でした。先に船客を下ろしたボートのひとがバラバラになったそうです。鴨緑丸に救助された夫は、門司に上陸しましたが、足に怪我をしております。

したので、神戸の郵船診療所に入院いたしました。病室には富士丸の方もおられました。門司に上陸した船客の方たちの中には、旅館に収容された方もおりましたが、小さな音にでもおびえ震えていたそうです。

その後、夫は自宅通院の後、二か月後に「りま丸」に乗船いたしました。門司出航直前、「無事にて暮らすよう洋上より祈る」との葉書がありました。そんな記憶の中で、魚雷を受け沈没した「りま丸」の最後は忘れる事が出来ません。

藤沢市で加茂丸の乗客だった長谷川様から、加茂丸で亡くなった多くの方がたへの鎮魂のために作られたという

「遠き日に沈没したる加茂丸の
晩餐のメニューいまここに」
のお歌を頂きました。

物故船員慰霊祭に献花

昨年、各地で行われた殉職船員慰霊祭、物故船員慰霊祭に会長名にて献花し御霊のご冥福を祈りました。

○七月四日 横浜市・赤門東福寺・

「海の月間」横浜地区実行委員会

「物故船員慰霊祭」

○八月二十日 小樽市・手宮公園・

小樽船員OB会「物故船員合同慰

霊祭」

○八月三十日 気仙沼市・向ヶ森慰



小樽市 「物故船員合同慰霊祭」

霊碑前広場・唐桑町海の殉難者慰

霊碑保存会「海の殉難者慰霊祭」

○九月二十六日 気仙沼市・明戸霊

園慰霊塔前・気仙沼市海の殉難者

慰霊塔保存会「気仙沼市海の殉難

者慰霊法要」

○十月二十三日 福岡市・西公園

光雲神社・福岡海寿会・「殉職者慰

霊大祭」

○十月二十九日 石川県能登町・久

田船長石碑前・久田船長顕彰会・

「久田船長碑前祭」

ご寄付のお礼

平成二十年八月以降、次の方がたからご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。(敬称略・順不同)

寄付金

有村真理子(鹿児島市) 海友会(高知市) 都竹利年雄(東京都杉並区) 日本内航海運組合総連合会(東京都千代田区) 阿部健一(川崎市) 日本船員福利雇用促進センター(東京都中央区) 榎田佳明(西宇和郡) 音淵和代(不明) 東野マツ子(東温市) 野島俊富美(西条市) 潮見精一郎(不明) 野間昭一郎(今治市) 岡野保(伊予郡) 伊藤勇(伊予市) 村上菊野(北九州市) 波津久達也(東京都江東区)

新加入会員ご紹介

当会は、主要海運会社や関係団体等の法人及び個人賛助会費、協賛会費、基本財産の運用収入等により運営しています。しかしながら利息の減少や海運会社の合理化にともなう法人賛助会員の減少により非常に厳しい運営を強いられています。そのような中でご遺族や関係者のご協力による個人賛助会員制度(年一口一万円)・協賛会員制度(年一口三千元)は慰霊、顕彰、援護事業を支える大きな力となっています。平成二十年八月以降、次の方がたが賛助会員・協賛会員に加入されました。厚く御礼申し上げます。

なお、個人賛助会費は毎年四月に、協賛会費は加入月に請求書を送付いたします。よろしくお願い致します。

◇協賛会員(敬称略・順不同)

武藤幸男(茂原市) 山下良子(東京都大田区) 藤原美代(宇和島市) 松原ミサヲ(松山市) 山地義夫(新居浜市) 石井富美子(松山市) 草間芳雄(新座市) 小笠原孝子(さいたま市) 小池俊一(村上市) 高宮良平(三浦郡葉山町) 小宮康治(大和市) 荒谷秀治(横浜市) 北岡正義(横浜市)

役員・評議員の一部交替

◇平成二十年七月十日の理事会及び七月十八日の評議員会で当会の役員及び評議員の一部の方が交代されました。

「理事」
新任 磯田 壯一郎
(財)海技振興センター理事長
退任 森谷 進伍

「評議員」
新任 平塚 惣一
(株)商船三井 常務執行役員
水澤 秀樹
(財)日本海事広報協会 常務理事
津野田 元直
(社)日本海員掖済会 常務理事
退任 鏡 敏弘、藤田 俊助、
小島 充嗣



殉職船員遺族援護事業



みんなのおたより

高知県 岡元 美紀

体育祭も終わり、クラブ活動も引退して早く帰ってくる日も多くなりましたが、友達と自主練習にときどき行つて運動しているようまだまだ受験勉強に本腰じゃないようです。

千葉県 門澤 希美江

いつもお世話になってます。娘は今受験勉強頑張っているところですよ。



門澤亜里紗さん(娘さん)

三重県 大竹 初美

いつも送金ありがとうございます。朝夕涼しくなり、ずいぶん秋らしくなってきました。今年も、小学校の運動会が春に終わってしまったので、夏休みが終わって、二学期になっても、ゆったり学校の授業が

進み、この季節を満喫することができ、よかったです。

中学生は、毎日勉強と部活動に頑張っています。部活動は、朝練もありヘトヘトの毎日です。

宮城県 阿部 悦子

日々ありがとうございます。九月初めに学校の行事で二泊三日の合宿があり、準備のために援護金を使わせて頂きました。

バスケットでは、毎回試合に出場し、がんばっています。身長が伸び、おいこされそうです。

毎日元気に過ごしています。



松田貴美子さん(中学3年生)

愛媛県 松田 優美子

いつもありがとうございます。みんな元気にがんばっています。娘も来春から高校生になります。

天皇即位二十年を記念し

「戦没船員の碑」

を取材

全日本学生文化会議

今上天皇在位二十年にあたり、これを記念して全国の大学生の有志で組織する全日本学生文化会議は、全国の子供の聖蹟を調査し記録にとどめる活動をしている。

秋晴れの平成二十年九月二十五日全日本学生文化会議全国聖蹟調査隊(東日本隊)が神奈川県観音崎の戦没船員の碑を取材した。



左から坂本匡史さん 佐々木晶さん 吉田孝徳さん

碑取材に先立ち、東京都千代田区にある当会事務局を全日本学生文化会議全国聖蹟調査隊(東日本隊)の代表三名が訪れ、当会齋藤常務理事から戦没船員の碑の建立の経緯、戦没船員の碑で毎年執り行われている追悼式や、天皇皇后両陛下の詠まれた歌碑など、皇室とのかかわりについて説明を受けた。

平成十七年七月に当会主催で開催された「終戦六十周年遺族の集い」では天皇皇后両陛下が予定の時間をはるかに超えて遺族と直接お話しをされたことや、御公務により、五月の追悼式へのお出ましがかなわなかったために、同年十月両陛下が希望されて、戦没船員の碑へのご供花が実現した事について、同隊隊長の佐々木晶さん(大学四年)は「天皇皇后両陛下の船員に対する想いの深さにふれ大変感銘を受けました」と語った。

また、太平洋戦争で亡くなった船員の損耗率が四十三%を超え、そのうち二十歳未満の船員が三割に達することを聞いた同隊事務局長の坂本匡史さん(大学三年)は、「僕たちは恵まれた時代に生まれたのですね。今を大事にしたいです」と述べた。

この後、天皇皇后両陛下がお出ましになられた、第三十回戦没・殉職船員追悼式の様子を記録したビデオ「波静かなれとこしえに」を鑑賞し、碑への理解を深めてから、観音崎へ向かった。(田中佐代子)

海の日

横須賀海洋少年団

「戦没船員の碑」清掃

昨夏七月の三連休の中日に、海洋少年団と当会役員による「戦没船員の碑」海の日清掃が行われた。



一生懸命に清掃する海洋少年団員

夏の強い日差しが照りつける七月二十日、横須賀海洋少年団（木下憲司団長）とその保護者、当会職員は戦没船員の碑前に集合し、当会齋藤常務理事の「ここは戦争などで亡く



齋藤常務理事より挨拶を受ける少年団員

なったたくさんの方を御まつりしているところだ」という説明を聞いたのち、広い公園内で草むしりをし、落ち葉を掃き清めた。また、碑もきれいに磨き上げ、全員で白菊を献花し戦没・殉職船員の御霊の冥福を祈った。

同団キャプテンの堀込雄大君（小学校六年生）は「（戦争のことは）

よくわからない。ただかわいそうだと思う」と言い、同副団長の橋詰坦さん（六十三才）は「子供たちは、まだ戦争のことはよく分からないと思う。碑は日本のために働いて亡くなられた船員さんたちの『お墓』だと話しています。ここに来ることによって、いつかそういった方たちのおかげで、今の自分たちがあることを分ってもらえればと思っっています」と語った。

なお、海の日清掃は毎年恒例の行事であるが、一昨年は台風四号の影響により中止となった。



堀込さんご一家
戦艦「三笠」の船上

昨年四月

横須賀市

堀込 喜春

海洋少年団の「ちかい」には、海のような広い心で団結し、すべての人を友とします・体をきたえ心をやしない、りっぱな海の子になりますというものがありません。海洋活動（手旗、ロープ、カッターなど）を通して、このちかいをひとりでも身につけるようになっていきます。

横須賀団の活動の一環では、毎年海の日には、慰霊碑（戦没船員の碑）の清掃をお手伝いしております。

横須賀海洋少年団 ご父兄のおたより

私自身は、小学生から中学生まで海洋少年団で活動してきました。その当時は、ただ楽しいから続けてきましたが、親となり、再び海洋少年団のことを思い起こすと、貴重な体験をしてきたなと思えました。

子供たちは、夏になるとカヌー・ヨットにのれることや、二年に一度の全国大会でいろいろな所に行けることを楽しみに活動しております。

終戦記念日の 献花式

毎年執り行われている八月十五日「終戦記念日」の戦没船員追悼の献花式典が横須賀市観音崎公園の「戦没船員の碑」前において、当日正午から武道館にて行われた政府主催の全国戦没者追悼式の進行にあわせて執り行われた。

真夏日の酷暑となる中、当会の現役員、海事関係者および本年より役員経験者にも参列いただき、合わせて三十三名が碑に花を捧げ、全員で黙祷をささげた。



平成20年8月15日終戦記念日献花式

事務局便り

◆ 投稿お待ちしています。

内容は随想、感想、本誌を通じてのご遺族や関係者の交流など自由です。字数に制限はありませんが、出来れば千四百字程度にとりまとめ、関連の写真とご自身の顔写真を同封して頂ければ幸いです。なお、投稿は当会で若干修正させていただく場合もございますので、あらかじめご了承ください。

◆ 伊藤虔二事務職員は、長年当顕彰会に勤務していましたが、九月三十日退職いたしました。当日本殉職船員顕彰会の常勤役職員は次のとおりです。よろしくお願い致します。

- 理事長 白居 勲
- 常務理事 齋藤 清伍
- 事務職員 山崎 剛
- 事務職員 田中 佐代子

◆ 戦時徴用船遭難の記録画展

平成二十一年八月二十五日(火)から九月六日(日)までの十二日間、鹿児島市の宝山ホール(鹿児島県文化センター)にて開催予定です。ご家族、お知り合いの方がたを含め、多数のご来場をお待ちしております。詳細は次号にてお知らせ致します。

編集後記

◆ 五月十四日追悼式の会場設営

第一回の追悼式は、昭和四十六年五月六日に皇太子同妃殿下(今上天皇)ご臨席のもと開催された。以来会場設営は昨年の第三十八回まで海上自衛隊横須賀地方隊のご尽力によって実施されてきた。長い間のご協力に関係者一同心から感謝です。

今後の会場設営は、民間業者に依頼し実施することになった。なお、音楽隊の出演と救護車配備は、引き続き海上自衛隊のご配慮を頂く予定である。時代の流れと共に、長い歴史が変わることになる。初心に帰り取り組んでいきたい。関係者の皆さんに改めてご指導とご協力をお願いしたい。



会場設営中の海上自衛隊員

したい。

◆ 戦時徴用船遭難の記録画展
会場の選定には、一年前から取り組まないと中々良い会場の確保は難しい。昨年実施した四国愛媛県美術館の会場は一月中旬に現地調査をし、八月末に開催した。テレビ・新聞報道はもろろんのこと、関係する団体、船社、現地行政の協力が要になってくる。

戦争の悲惨さを後世に伝えるには小・中学校の児童生徒、高校生、松山市教育委員会を訪問し、ご理解とご協力を頂いた。

また、会場入口玄関の上に、大きな記録画展開催の看板を作製掲示し、毎朝、松山城のお堀端でチラシ配りをした。その効果か、一〇〇〇人の来場者を確保できた。それにしてもテレビの昼と夜の二回のニュース報道は、来場者の数を間違いなく増やしてくれた。感謝感激です。

◆ 十二月八日、太平洋戦争開戦の日である。昭和十六年の十二月ハワイ真珠湾の奇襲作戦から始まった。

今でも世界のいずれかの地で戦いが起きている。記録画展来場者のアンケートを拝読し、二度と起こしてはならない戦争、つくづくそう思う。(齋藤清伍)